

## ボールゲーム D (バスケットボール) をふりかえって

保健体育講座・石井浩一

### 1. 受講者数

男子 41 名。

### 2. 担当教員名

石井浩一 (前半 7 回のバスケットボールを担当。ただし、内 1 回は出張のため休講)

### 3. 授業の目的

侵入型のボールゲーム (サッカーとバスケットボール) の個人技能を高め、グループ戦術およびルールについての理解を深める。学校体育や地域社会におけるボールゲームの指導に役立つ技能と知識を習得する。

### 4. 授業展開と工夫

第 1 回 (10 月 17 日) : スキルチェック

まず受講生の現段階での個人技能を把握するために、スキルチェックを行った。与えた課題は 3 つ。制限区域のライン沿いのドライブからレイアップシュート (左右 1 本ずつ)。フリースロー 2 本。パス・レシーブしてジャンプシュート (左右 1 本ずつ)。この 3 つの課題を 1 人ずつ行ってもらい、修正点を提示した。授業の初回に明確な課題を与えることで、学生の動機付けが高まるという考え方に基づく工夫である。また、スキルチェックは点数化し、メモした。

第 2 回 (10 月 24 日) : スキルチェック

内容は第 1 回と同じ。

第 3 回 (10 月 31 日) : グルーピングとファンダメンタル・オフENSES の練習

スキルチェックの点数およびバスケッ

トボールの経験年数を元にグルーピングを行った。このグルーピングは授業のなかで練習する単位であり、後にチームになっていく単位であるので、できるだけ技能の偏りがないようにするための工夫である。また、各グループのキャプテンを決め、リーダーシップを発揮する役割を明確にした。ファンダメンタル・オフENSES の練習内容は、1 対 1 と 5 対 5 である。

第 4 回 (11 月 14 日) : ファンダメンタル・オフENSES の練習とゲーム

前回の 1 対 1 から発展させて、2 対 2 の練習を行った。初めドリブル禁止で、パスのみでシュートまで持つて行くことを指導した。次いで、ドリブル解禁として行った。しかし、あくまでパスが第一義の技術であることを指導した。その後、ゲームを行った。ゲームの前後には必ずミーティングをして、チームの結束を図り、修正点を確認することは事前に指導した。

第 5 回 (11 月 21 日) : ファンダメンタル・オフENSES の練習とゲーム

前回の 2 対 2 から発展させて、3 対 3 の練習を行った。内容はほぼ同じで、ドリブル禁止→ドリブル解禁である。その後、ゲームを行った。ミーティングも同様に言い、一過性のミーティングに終わるのではなく、必ず次回に課題を持ち越して臨むよう、指導した。

第 6 回 (12 月 5 日) : 総括

最終回なので、各チームのキャプテンに練習内容は任せた。15 分程度チームに練習時間を与え、ゲームに臨むよう指導した。学生による自由な発想を 1 回くらいは期待するという考えからの工夫である。その後、

ゲームを行い、筆者はゲームを観察して、1人ずつに評価点をつけた。ゲーム終了後に、レポート提出についての説明と今後の課題について提示し、バスケットボールの授業は終了した。

#### 5. 学生のレポートにみる達成度と授業評価

学生が提出したレポートの中から、授業の達成度を測る部分と、授業評価に該当する部分を抽出したものを以下に挙げる（誤字・脱字・重複表記は、筆者が校正した）。

**R1:** 他回生との交流も深まり、さらにチームでの基礎的な練習から試合の実践など、楽しみながらでき、自分にとってとても満足のいく内容だった。

**R2:** 今回の授業ではオフェンスを中心にやったので、オフェンスの練習方法は学ぶことができた。

**R3:** 先輩と一緒にプレイできたことが嬉しかった。

**R4:** 短期間だったが、多くのことを学べた。

**R5:** 少ない授業回数だったが、練習やゲームの中で、いろいろ自分の課題を発見することができた。課題にしていたレイアップ（シュート：筆者）は、まだできたとはいえない。

**R6:** 先生が「ルールは自分で調べておくように」などの言葉かけが必要だったのではないか。

**R7:** 自分の専門であるサッカーに、バスケットボールの知識は生きると思った。

**R8:** 個人技能の達成度がまだまだ低いので、今後の課題にしたい。

**R9:** 最初に技能テスト（スキルチェック：筆者）をするのはとてもよい。不満だった点は、バスケットボールの専門用語の説明不足。

**R10:** ゲームの後の反省会で出た反省を紙に書いて記録しておけば忘れることもなく、反省をうまく利用できると思った。

**R11:** 最初の2回を使ってスキルチェック

を行ったことは、その後の授業の中味を濃く、有効なものにしていくうえで、重要なものだった。2対2から徐々に人数を増やしていきながら、試合形式で実践的な練習をしたことも技術向上のために役立った。

**R12:** 個人的には、最初よりシュートが入るようになって、リバウンドもとれるようになったので、練習の成果があったかなと感じる。

**R13:** 小・中・高では、ただドリブルをさせ、ランニングシュートをいきなりさせてテストし、ゲームでは経験者が常にボールを支配するといった感じを受けていた。しかし、この授業を受講して、パス回しやディフェンスを付けたシュート練習、1対1など自力でゴールを狙わせる練習を取り入れれば、少ない回数の授業でも、こんなに充実した授業ができることを知ることができた。

**R14:** 1, 2回生合同の授業だったので、先輩ともコミュニケーションを図ることができてよかった。

**R15:** チームにバスケットボール部員がいないため、皆が自分のことで精一杯になるきらいがあったが、先生がアドバイスをくださって、他のチームと変わらない状態になった。バスケットボールの知識や指導法だけでなく、今までの体育の授業ではなかった進め方も知れて、自分にとってプラスになることが多くあって、とても有意義な時間になった。

**R16:** 実践練習の中でシュートを打つ際、フリーなのに打つときに焦ってしまったり、体が流れてしまったりして点をとることができず、あまりチームに貢献することができなく残念だった。

**R17:** いざ試合となると、なかなかシュートが入らなかった。また、試合の初めの方はシュートが入っていたが、後半になるとなかなか入らなかった。

R18：スキルチェックでシュートフォームが少しおかしい（重心が右足だけに乗っている）と指摘され、自分なりに考えながらやり、結構修正できたと思う。私が将来教師になり、バスケットボールを教えるときは、この授業のようにオフェンス中心の授業を進めていきたい。

R19：バスケットは嫌いだったけど、バスケットの楽しさや魅力がわかった。

R20：個人的なスキル、バスケットボールの戦略や知識、指導法の1つの手段が新たに身についたのではないかと感じる。

R21：ディフェンス面をたくさん学ぶことができた。技術的に成長したことはとてもうれしかった。そして、学びたかった練習法、授業の構成を学べた。

R22：バスケットボールはもちろとても面白かったが、それ以上にバスケットボールの難しさを感じた。7回の受講で、私がもし教師になった時、生徒に実技を教えられるかという、ほとんど無理だと思う。知識、技術ともに向上させないといけないと実感した。

R23：最初のテスト（スキルチェック：筆者）で、自分の技術レベルを知ることができてよかった。その時に先生にアドバイスをもらえたこともよかったと思う。難しい部分もたくさんあったが、全体でもチームでも充実した練習ができたと思う。なにより楽しんでバスケットボールができたことを嬉しく思う。もし、自分が体育の教師になった時は、この授業を参考にしていきたい。

R24：自分の頭の中ではその人のできていないところははっきりわかっているのに、うまくそれを伝えることができなかったし、感覚的なもので伝えにくいところをどう伝えればよいのかわからなかった。

R25：試合形式の練習を通し、戦略やポジショニングのことなどの実践的なこと

を学ぶことができた。全てを習得することはできなかったが、バスケットボールという競技について深く知り、1つずつ課題を見つけ、意識しながらプレイをすることが講義を通してとても良かった。

R26：この講義では学びや経験の他に「楽しさ」を感じた。どのようなスポーツ、体育でも「楽しい」と感じる、あるいは感じてもらうことは大切だと強く思う。そして、石井先生の練習方法は将来の自分の授業でも使いたいと思う。

R27：バスケットボールという競技について専門的に勉強することを通して、自身のバスケットに関する知識、スキルアップの向上はもちろんのこと、上回生と一緒に授業を受けることによって競技する中でコミュニケーションスキルの向上につながったと思う。

## 6. 今後の課題

学生のレポートから今後の課題について述べる。達成度に関しては、筆者は本授業ではオフェンスの学習中心で、個々人の技能を高めて欲しい、と初めに伝え、そのためにスキルチェックを行った。しかし、やはり6回の授業ではあまり高い水準を求めるのは酷である。学生は意欲的に取り組んでくれたが、回数の少なさは実感としてあったようだ。次に、専門用語がわからないので、説明もしくは予習を促す言葉かけがほしかった。という趣旨の意見があったが、この点については、確かに時間を割けなかった。予習も大事だが、授業の中で適宜、動きながら専門用語を教えるべきだったと反省している。また、ミーティングノート作成についても検討したい。来年度は、以上の点に留意して授業に臨みたい。